

## はじめに

共同研究促進事業は、国立研究機関を核として、公立研究機関や企業、大学の研究者が研究分野・所属組織を越えて共同で研究に取り組むことで互いの知識、技術を最大限に利用し合い独創的な研究を円滑かつ効果的に進め、科学技術の振興に資することを目的として平成5年度より開始された。

平成6年2月、まず関西地区で「プラズマCVMによる精密加工技術の研究」を研究テーマとした兵庫研究室がトップランナとしてスタートした。

続いて平成6年度、長崎地区研究交流促進会議がとりまとめた西九州地域において推進すべき共同研究課題8課題のうち長崎地区の「動植物細胞におけるストレス応答機構に関する研究」を選定し、平成7年2月より、農林水産省農業生物資源研究所及び同省九州農業試験場を核として長崎県工業技術センター、秋田住友ベーク株式会社、倉敷紡績株式会社並びに新技術事業団（現科学技術振興事業団）長崎研究室の六者による共同研究が開始され、5年間に亘り進められてきた。

この間、平成7年第二次補正予算による研究委託事業が実施され、共同研究等促進事業として、地域の研究開発型企业等14の研究機関が参加して、海洋微生物ライブラリ作成、海洋生物培養技術開発、生体メカニズム研究及び研究支援機器開発の各分野でそれぞれ広範囲に亘る研究が実施された。

本共同研究の主たる対象領域である“細胞ストレス応答機構”に関する研究並びに上記研究委託事業は、本共同研究推進委員会委員長の長崎大学 渡邊正己教授を中心として進められ、上記国立研究機関等六者ととも長崎大学並びに聖マリアンナ医科大学の研究者チームが加わって生命科学研究の発展に大きく寄与するものとなった。

本報告書は、本共同研究期間終了にあたり、上記研究委託事業を併せて共同研究の成果をまとめたものである。

平成12年2月

科学技術振興事業団  
研究交流・支援促進室